

平成30年度

# 周防大島町教育の基本方針



周防大島町教育委員会

# 目 次

I	周防大島町の教育	
1	本町教育の現状と課題	1
2	基本方針	1
3	基本方針の推進	1
II	周防大島町教育の構造	2
III	学校教育の基本方針	
1	基本方針	3
2	重点施策	3
IV	社会教育の基本方針	
1	基本方針	5
2	重点施策	5
V	総務の基本方針	
1	基本方針	6
2	重点施策	6

# 平成30年度 周防大島町教育の基本方針

## I 周防大島町の教育

### 1 本町教育の現状と課題

本町の教育は、町民の熱意と関係者の努力、地域の強い絆に支えられて、今日まで歩んできた。しかしながら、我が国における経済の国際化や人口減少などの影響を受け、地場産業の衰退や少子高齢化等の課題が生じており、本町の重点施策「定住対策」を視野に入れた教育の在り方を問い直す必要がある。また、グローバル化や情報化が進展する中で、先を見通すことが困難な状況になっている。だからこそ、周防大島町で学び、育ち、住んで良かったと思えるよう、本町教育の魅力をさらに高めていく必要がある。

新学習指導要領においては、未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することとともに、その資質・能力を社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」が重視される。本町においても、児童生徒の実態と地域社会の現状を踏まえ、多くの人のあたたかいつながりの中で教育活動を展開することが求められている。

### 2 基本方針

本町教育の推進にあたって、町教育委員会は「自立・協働・創造 ～ふるさとに誇りがもてる人づくり・地域づくり」を基本目標として定めている。

未来の周防大島町を担う子どもたちが、心豊かでたくましく育つように、家庭や地域と学校の連携を強め、全ての町民が子どもたちの成長を支える仕組みづくりを推進し、つながりのある地域社会を創造することで、子どもたちの「生きる力」を育むことが必要である。そこで「生きる力」を自立（自ら生きる力）・協働（ともに生きる力）・創造（よりよく生きる力）と整理し、純朴・勤勉な町民性や子どもの教育のためには自己犠牲をも惜しまぬ教育風土を受け継ぎ、現在の町民の願いを踏まえて、複雑高度な文明社会に立ち向かい、たくましく生きる人材を育成することが本町教育の基本方針である。過疎化、少子化のすすむ本町ではあるが、やがてはこのような人材が文化の香り高い島づくり、人づくりに寄与してくれるものと期待している。

このことは、町が掲げるスローガン「元気、にこにこ、安心で21世紀にはばたく先進の島」の実現にもつながるものと信じている。

### 3 基本方針の推進

具現化にあたっては、学社融合の姿勢を根底に据え、学校教育、社会教育（家庭・地域）の分野において、次のような視点から取り組む。

- (1) 学力を高め、心を育てることにより、現在そして将来、社会の一員として活躍できる人づくりに努める。
- (2) 学校や家庭、地域社会の教育力を生かし、心豊かな町づくりに努める。
- (3) 生涯学習、生涯スポーツの振興に努め、元気で明るい町づくりをする。
- (4) 教育に重点を置いた町政のもと、将来を見据えた教育環境の整備と有効活用に努める。

## II 周防大島町教育の構造

### 町のスローガン

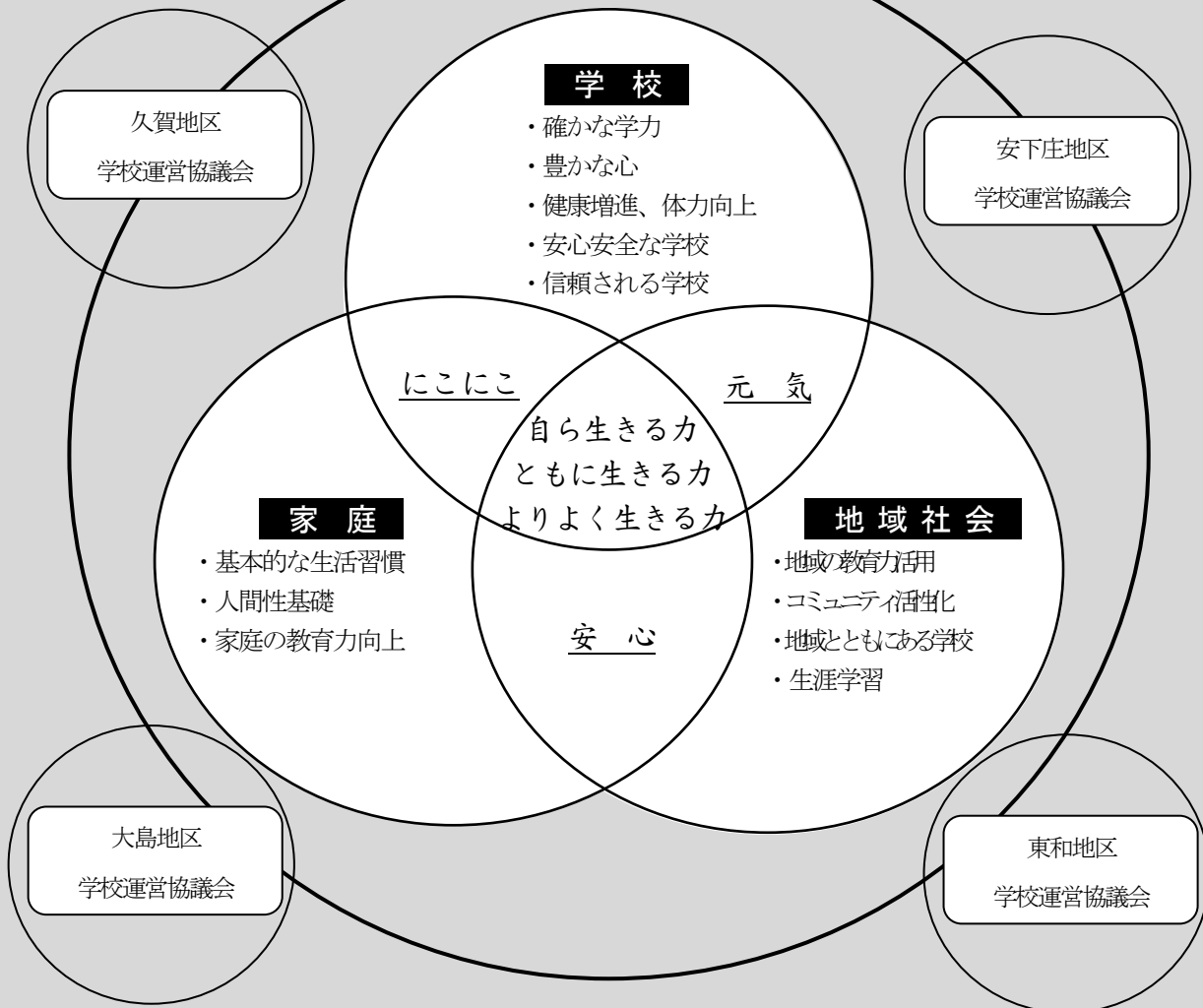
元気 にこにこ 安心で  
21世紀にはばたく先進の島



### 教育の基本方針

自立・協働・創造  
～ふるさとに誇りがもてる人づくり・地域づくり～

### 周防大島協育ネット



### 教育委員会の支援

- ・教育環境の整備、有効活用
- ・生涯学習、生涯スポーツの振興
- ・人権教育の推進

### Ⅲ 学校教育の基本方針

#### 1 基本方針

学校教育は、人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成を目的としている。この目的達成のためには、基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、学ぶ意欲や向上心等を高めるとともに、感謝の心や思いやり、困難に負けないたくましい心身の育成など、「生きる力の育成」が必要である。

そして、この育成にあたっては、学校経営において、

- ① 教職員の優れた指導力と保護者・地域との信頼関係という土台をつくること
- ② 学校内外の教育資源を積極的に取り込むこと
- ③ 小中高の連携など長期的見通しを持つこと

が必要となる。

また、学校経営を充実させるためには、

- ① 学校の実態を踏まえた重点目標の明確化
- ② 全教職員の関与による目標と具体的方策の設定
- ③ 自己評価や学校運営協議会等の評価を生かした学校評価・学校改善

のPDCAサイクルを軸に、地域とともにある学校づくりを進めることが大切である。

#### 2 重点施策

##### (1) 確かな学力の育成

- 小学校低学年からの英語教育、中学校の英語検定助成・英語指導等をとおして英語コミュニケーション能力の高い児童生徒の育成を図る。
- ICT 機器を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指すとともに、個に応じた指導を取り入れた授業実践や学校間交流を進める。
- 減少する児童・生徒の実態を踏まえて、KS 学習（拡大集合学習）や中高一貫教育等の教育活動の一層の工夫を図る。
- 小学校5・6年生対象の漢字・算数検定、中学生対象の英語・漢字・数学検定を助成し、自ら目標をもって学習に取り組もうとする意欲を高める。
- 地域の人的・物的教育資源を活用し、ふるさとを知り、ふるさとに誇りを持つ「地域に開かれた教育」の充実を図る。
- 特別支援教育支援員の配置等により、個に応じた指導の充実を図る。
- 検証・改善サイクルを生かした児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。
- 教員研修の在り方を工夫し、教員の授業力向上を図る。
- 異校種間連携をとおして、学習規律の確立、家庭学習の習慣化に努める。

##### (2) 豊かな心の育成

- 学習指導要領をふまえ、基本的な倫理観や社会性、規範意識などを育むため、発達段階に応じた道徳教育の充実を努める。
- 子どもたち一人ひとりの人権尊重意識を高め、互いの人権を尊重し合う態度を育成する。
- 読書活動のさらなる充実を図り、主体的に読書に親しもうとする心を育てる。

○深い児童生徒理解に基づく開発的・予防的な生徒指導に取り組む中で、子どもたち一人ひとりの自己指導能力を育てる。

○様々な交流・体験活動の充実を図り、心豊かな子どもを育てる。

### (3) 健康増進、体力向上

○児童・生徒の健康、体力の実態を把握し、向上に向けて計画的な取組を行う。

○体育の授業を充実し、主体的に運動に取り組む楽しさを味わわせる。

### (4) 安心・安全な学校

○いじめや不登校、問題行動の未然防止に努めるとともに、必要に応じて関係機関とも積極的に連携し、早期解決を図る。

○自然災害や不審者への対応などに向けて、校内体制を整備するとともに、防災教育の充実を図る。

### (5) 信頼される学校づくり

○コミュニティ・スクール、地域協育ネットの取組を充実するため、地域の教育力を活かした地域ならではの教育課程を実践し、子どもの豊かな体験や学びにつなげる。

○地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域のコミュニティの活性化に貢献する。

○情報の発信や学校の課題の共有化による学校と保護者及び地域の信頼関係の醸成を図り「地域とともにある学校」をめざした自主・自律した学校運営をすすめる。

○服務規律の確保、綱紀の保持に向けた計画的・継続的な教職員研修を行う。

## IV 社会教育の基本方針

### 1 基本方針

国際化、情報化や科学技術の進展にともなう価値観の多様化、また、環境問題の深刻化、少子高齢化などの社会状況の変化の波は本町にも押し寄せている。近年は、町民個々の学習ニーズも多岐にわたり、また、わが町が長年培ってきた家族や地域ぐるみの「共同体に支えられた教育基盤」も変容しつつある。

そこで、本町では、人権尊重の理念を基礎として、新たな時代に対応できる町民の育成と、高齢化社会における健康と生きがいがいづくりに向け、「だれでも、いつでも、どこでも」学び、ふれあい、楽しめる社会教育の実現を目指す。

加えて、私たちの心の豊かさの源であり、郷土への誇りとなる特色ある文化遺産の継承と地域文化の創造に努め、本町教育の基本方針である「自立・協働・創造～ふるさとに誇りがもてる人づくり・地域づくり」の具現化を図りたい。

### 2 重点施策

#### (1) 多様なライフスタイルに対応した生涯学習の推進

- 多様なニーズにあった生涯学習情報や学習機会の提供・学習内容の充実
- 社会教育施設の環境整備と利用の促進
- 郷土の歴史・芸能・文化の保存・継承と文化活動の推進
- 読書活動の奨励
- 明治150年記念事業の取組（山口ゆめ花博に参加）

#### (2) 地域教育力活性化の推進

- 地域ぐるみで子どもの育ちを支援する「地域協育ネット」の推進
- 家庭の教育力を高める学習機会の充実・相談支援体制の整備
- 青少年の健全育成に関わる情報の提供、相談体制の整備
- 社会教育団体の育成支援

#### (3) 人権教育の推進

- 「山口県人権推進指針」の周知と人権意識の高揚
- 指導者の育成による人権教育推進体制の充実
- 「周防大島町人権教育推進大会」の開催
- 各公民館における人権学習講座の開催

#### (4) スポーツの振興

- 生涯スポーツの普及や地域スポーツ活動の充実
- 各種指導員の養成・確保及び研修会の充実
- スポーツ施設の機能向上と利用促進
- 学校体育施設開放の促進及び効果的な活用
- 総合型地域スポーツクラブの育成

## V 総務の基本方針

### 1 基本方針

学校再編については、平成33年4月に統合中学校（周防大島中学校（仮称））が開校することに伴い、今年度から具体的な準備を始める。

学校施設の整備・充実については、教育環境の向上を図るため、平成31年度を目標として、年次計画的に、全ての小中学校の普通教室等に空調設備を設置する。本年度は小学校1校の空調設備工事を実施する。

また、学校施設の長寿命化を図るため、平成30年度～31年度の2ヶ年で学校施設長寿命化計画を策定する。

学校給食については、安全・安心な学校給食の提供を基本理念とし、安全性への配慮、食育の推進、食材の地産地消などに取り組む。

### 2 重点施策

#### (1) 小中学校統合問題

○平成33年4月に第1段階統合として、久賀中、東和中及び安下庄中を統合し統合中学校（周防大島中学校（仮称））が開校することに伴い、統合校舎等を整備する。今年度は統合校舎となる久賀中学校校舎を新增築するための基本実施設計業務を実施する。

また、統合後に2校となる中学校が、さらに魅力のある学校になるよう、魅力化検討委員会を設置し検討・協議を進めて行く。

#### (2) 学校施設の維持修繕

○学校との連絡調整を密に行い、緊急性・必要性の高い施設整備 要請については、順次修繕等を実施する。

#### (3) 学校施設の整備・充実

○年次計画に基づき、潤いのある快適な教育環境を実現するため、充実した施設整備を順次行う。

・小学校空調設置工事（1校） 沖浦小学校

#### (4) 学校施設長寿命化計画策定（平成30年度～平成31年度）

○小中学校施設の老朽化に対応するため、施設の点検により、その状況を的確に把握した上で、修繕・改修等の優先順位付けや予算の平準化、トータルコストの縮減等を加味した計画を策定する。この計画に基づき、学校施設の長寿命化を効果的・効率的に進めていく。

#### (5) 周防大島町語学留学生派遣事業の実施

○本町と協定を結ぶ山口大学国際総合科学部の協力により、フィリピンセブ島において、英語の語学力を向上させるため語学留学生の派遣を行う。



(6) 周防大島高等学校通学支援費給付金事業の実施

○周防大島高校の存続・発展を図るため、昨年度に引き続き、生徒の通学費の一部を生徒の保護者に対して給付する。

(7) スクールバス白木線の購入

○児童生徒のスクールバスと一般混乗を兼ねて運行している、スクールバス白木線の車両（29人乗りマイクロバス2台）を更新する。